

〔巡検会報告〕

五木五家荘巡検会報告

8月6日

8月6日から8月8日まで2泊3日の夏期巡検会が行なわれ、田村先生の御指導のもとに総員21名無事に予定の全日程を終えた。

8月6日、熊本バスセンター8時30分集合。いつも見かける顔々で車中は同窓会のピクニックのような雰囲気である。

甲佐町を経て中央村を過ぎたあたりから竜峯山帯の結晶質石灰岩の露頭が遠望され、やがて泉村和小路の氷川ダム建設予定地に着いた。ここは低用層の礫層の上に阿蘇の溶結凝灰岩が堆積している部分なので、ダムの水位は礫層の一番上までに限られるということであった。ダムサイトより深山谷へ、バスを下車して約30分せまい急傾斜の山道を登った谷に三疊紀ノーリック時代のモノチスの露頭がある。田村先生よりモノチスの時代とリブの特徴と変異についての指導を受けたあと化石採集にとりかかった。

泉中学校で中食の後のよいよ五家荘へ、岩奥より最近開通したばかりの林道を進むが、ギラギラ照りつける太陽の下もうもうたる砂煙でバスの中はむんむんしている。海拔1,000m付近にある笹越トンネルを過ぎた所に櫃轟の滝がある。このあたりはチャートとシャールスタインの地域であるが滝の部分の岩石は近寄ることができず不明であった。

小原、五家荘の銀座椎原、板木を抜けて五木村へ入る。V字形の谷にはたぐさんの支流が合流しているが、その中のいくつかは川床の侵食の違いのために川床に高度差ができて小さな滝ができた部分があり、これを写真に収める。川辺川をさらに下って頭地に出る。ここは昭和38年の五木水害の際の山崩でえ

ぐりとられた山肌がそのまま残っており、そのすさまじさを見せつけられた。この日は頭地で1泊。

(鏡中 宮河 宏之)

8月7日

第2日目、五木村(頭地)の味噌漬を朝食に頂き、山深き五木の里に別れを告げる。

川辺川の支流に沿い南下し深田村のキースラーガー(含銅層状硫化鉄鉱床)の見学に向う。途中、大坂間構造線を見学したが予想した以上に小さく、露出する石灰岩と夏岩の別れ目あたりに小さな乱れを観察できたくらいである。

これを境に車は、ほとんど化石を産出しない四万十帯北帯にはいり南下する、川辺川沿いにもキースラーガーを見ることができた。

目的地深田鉱山に到着したが人の活動していない鉱山は何か不気味な感じさえうける。

ここではチャート、輝緑凝灰岩(シャールスタイン)やジャスパー、黄鉄鉱を採集した。

ここより次の目的地人吉市柳瀬に向う。バスの中より素晴らしい扇状地をみることができた。柳瀬では始良の溶結凝灰岩を採集。

人吉では城跡でシラスを見学、球磨川沿いでは人吉層を見学する。

午後は人吉より南に走り、桑の木津留でめづらしい、そろばん玉石を道路沿いでタンパク石・オパール、さらに流紋岩の良い標本を採集した。

たぐさんの石をリュックにつめこみ宿泊地人吉の国民宿舎にむかった。

(本渡南小 石井二三男)

8月8日

8月8日午前8時30分、国民宿舎くまがわ荘出発。宿舎の少し下流の西瀬橋へ人吉層と阿蘇火砕流（凝灰岩）との不整合を見学に行く。橋の中ほどで対岸の不整合を写真にとる。ここで、人吉層についての説明があったのでそれを略記する。人吉層は全層厚500m以上で下部は主として礫層。上部は主として泥岩より成り砂岩や凝灰岩をはさむことがある。下部の礫層中の礫は盆地の北東部では主として父秩層中より供給された砂岩等から成り南西部では肥薩火山区の活動を示す安山岩等の円礫が多い。又上部層中の泥岩中にはドブガイやタニシ等が化石として産出することから湖成層（淡水層）と考えられている。花粉分析による植物相は上部層はマツ・ツガ属に代表され、下部層はカン等に代表され上部層は下部層よりやや暖く、現在と大差ない気候であったと考えられている。次に西瀬橋端の露頭について記す。下位よりこぶし大の円礫層約90cm。その上位には黄褐色の泥岩約80cm。不整合面をおき礫層（基底礫岩）。その上に灰色のバサバサの火山灰層4m以上である。参加者の先生方は写真をとったり露頭をスケッチしたり田村先生の話をもとにしたり大変熱心でした。西瀬橋を引返し、300mほど下流の道路ぞいの露頭で下車し、人吉層上部層の見学をする。この露頭はかなり大きくて10m以上にわたり人吉層上部層を連続して観察することができた。近くには断層も見える。地層の傾斜も西瀬橋のよりも大きく15°近くを示している。バスは肥薩線にそって球磨川を下り「渡」の砂利採集場で停車する。ここでは四万十層群と人吉基底層の不整合を対岸より撮影する。先生の話によると、人吉層は川床のみならず山の中腹までのびているのである。なお人吉層の傾斜について記すと堆積盆の中心部（西瀬橋など）では水平に近いが盆地の端になると傾斜が大きくなりこの付近は人吉層の堆積盆地の端近くに当り、20°をこすようなかなり大きな傾

斜を示している。さらに球磨川にそって下る。この付近は四万十帯の岩石を道路ぞいの各所でみる事ができた。断層が多く地層は乱れており調査の困難さがバスの中からも感じられる。大坂間駅対岸付近で下車し、大坂間構造線を見学する。昨日頭地で見えた石灰岩が見えその手前が構造線の位置に当る。大坂間構造線は、四国では仏像構造線とよばれ第3紀の中頃形成された。四万十帯と父秩帯を境する構造線で相当大きな構造線であるが見かけ上はあまり大きく感じられず両層群は構造線を中心に平行に近い感じである。（銜上断層）露頭について記すと構造線を中心に上流は砂岩、頁岩、互層などで三疊紀のアニシク階のアンモナイトを産する地層と連続しており、下流には粘板岩、石灰岩などが位置し、石灰岩中よりフズリナのヤベイナを産する地層と連続している。（古生代二疊系神瀬層群）さらに球磨川ぞいに下り滑正岩、柏たおしの瀬を写真におさめ、神瀬で下車し、鐘乳洞の見学をする。さらにバス中より御笠のモノチス産地、鎌瀬のフズリナの産地の説明がありバスは大きく右に折れて馬廻へフズリナの採集へ向う。熊本県でのフズリナの産地は最近是非常に限られてきており、会員の先生方もよい標本を採集されて喜んでおられたようである。馬廻を後にしてバスは一路熊本へ向う。途中松橋付近の岡岡運動公園へ向う。運動公園の整地もかなり進んでおり、いものは採集できなかった。僕もモノチスの化石も採集できたし、めずらしい方解石の結核も採集できた。（ソロバン玉石の産地）質はあまりよくないそうであるが（自分中でも自分の採集したのは品質良と思っている。）オパールも採集できたし本当に良かったと思っている。最後に五木の宿でのシソの香りとトウフのみそつけの味と球磨川の水の冷たさが心に残る。本当に有意義な巡検であったと思う。最後に外国留学前のいそがしい時期に案内していただいた田村先生に心からお礼申し上げます。

（御船中 藤村 幸周）